

## 学術機関リポジトリ

# 酪農学園大学/酪農学園大学短期大学部 学術研究コレクション

## Collected Literature in Organized and Valuable Electronic Repository (CLOVER)

---

### 1. はじめに

大学の研究成果を電子的に発信する窓口である学術ポータルの一環として、近年「機関リポジトリ」が注目されています。

機関リポジトリとは、

リポジトリ(Repository) + 機関(Institution) = 機関リポジトリ(Institutional Repository)

・倉庫、貯蔵庫、[知識の]宝庫

・大学・学術機関が設けるインターネット上の電子書庫

研究成果物を収集・蓄積・保存して、インターネットを通じて無償で機関の内外へ発信することです。

以下のような目的があります。

- ・ 機関の研究・教育成果を発信して共有する
- ・ 電子的な研究・教育成果を恒久的に保存
- ・ 研究・教育成果の可視性を高めて機関の認知度を上げる

----- 『学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)』 ----- <抜粋> -----

平成 14 年 3 月 12 日 科学技術・学術審議会

### 2. 学術情報の流通基盤に関する基本的方策

#### (2)大学等からの学術情報発信機能の整備

##### ①統一的な情報発信体制の確立

「大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには、総合的な情報の発信窓口(ポータル機能)を設置し、統一的な規約によって情報を発信する必要がある。このため、大学図書館が中心となって、情報の形式、登録方法などに関する統一的なルールについて、学内での合意を形成する必要がある。さらに、大学図書館と情報処理関連施設等が協力して情報発信のためのシステム設計・構築を行う必要がある。」

---

### 2. 本学における取り組み

大学の研究成果の公開・発信は、大学がどのような研究を行い、どのような成果を上げているかを正しく伝えていくことであり、大学の「個性化」、大学の「特色化」、大学の「ブランド力」の強化を図る上で確固たる手段となるものです。学内での理解、協力のもと持続可能な事業として取り組む必要があります。

この目的のため、機関リポジトリを運用する図書館は次の実務を行います。

- ① 機関の事業として学内合意を得る
- ② 研究者に代わってコンテンツを継続的に探し、集め、登録する

#### 2.1. システム

ハードウェア、ソフトウェアの選定には、購入・維持等の費用面、設定・カスタマイズ等の技術面、インターフェース、登録・管理等の機能面、セキュリティ等の安全面を考慮する。

## 2.2. 合意形成

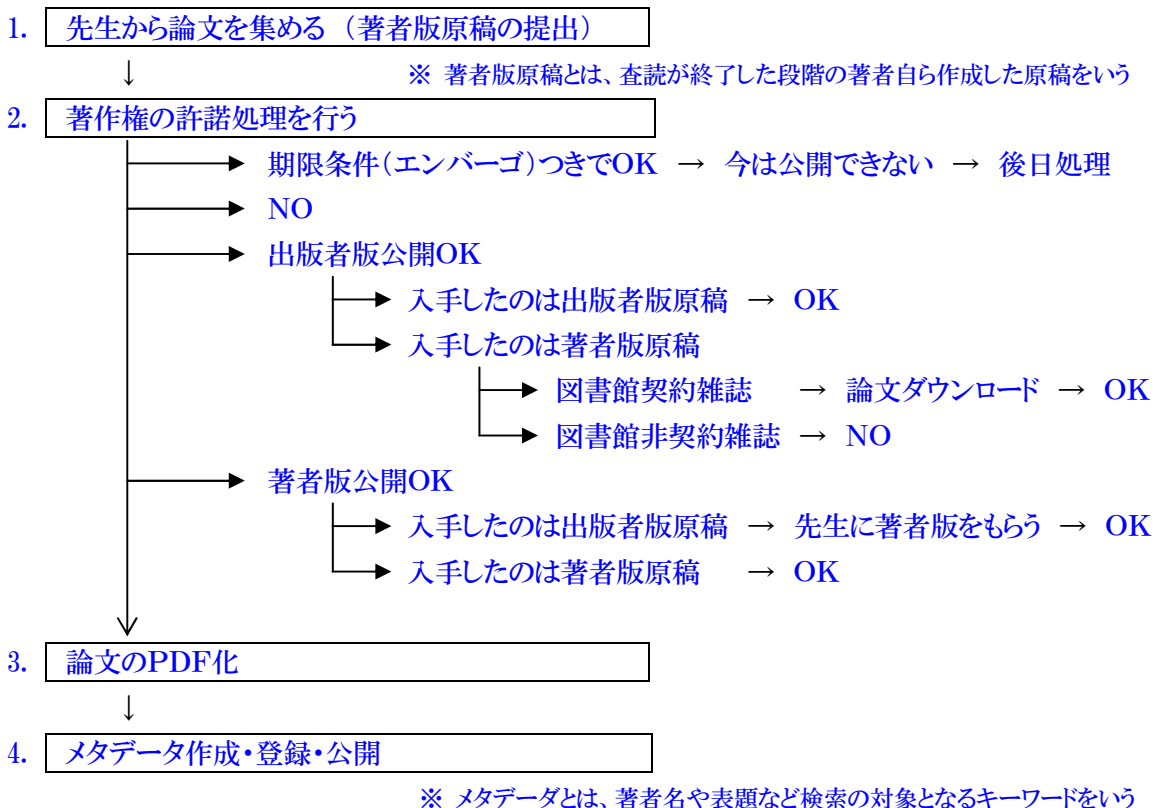
機関リポジトリを図書館(担当部署)だけの事業とするのではなく大学全体の事業として認知する。機関リポジトリが研究成果の新たな発信ルートとなりえること、情報を共有し可視性を高めることにより研究者の認知度を向上させるメリットのもと協力を取り付ける。

## 2.3. コンテンツの収集

研究者の負担を減らす。

- コンテンツの収集は図書館で行う
- コンテンツは媒体を問わない(電子ファイル・雑誌・別刷)
- 著作権の許諾処理は図書館で行う

### 例) 雑誌掲載論文の公開までの流れ



## 2.4. 対象コンテンツ

本学の研究成果を大学外へ発信する位置づけから、対象とするコンテンツは次のようなものを中心とする。

- 本学発行の研究紀要等(研究成果)
- 本学教員が上記以外に発表・公開した研究成果としての論文、データ、実験結果等
- 学位論文、科研報告書等の研究・教育の成果
- 本学教員の教育・学習上の素材

## 2.5. 学内のほかのデータベースとの協調

学内には多くのデータベースがあり、内容やコンセプトの重複がある。情報を提供する側の教員の負担も問題となりつつある。このような状況から、学内における知的資源のあり方をトータル的に調整することが必要となる。既存の研究業績系データベース、EX活動系データベースとの協調を図り、学内の情報インフラの整備を実施していく。

### 3. 基本設計

#### 3.1. 愛称

オープンアクセスの学術データベースとして多くの人々に認知され、親んでもらえるよう愛称を設けた。本学の機関リポジリは牛学センター構想に端を発すもので、牛から連想されるものから熟考の結果、「クローバー(CLOVER)」を選んだ。クローバーは代表的な牧草として知られ、また、本学キャンパスはもとより、全国に広く分布し、身近な植物として親しまれている。

明治初期に北海道に導入されたのが牧草利用の始まりであること、キリスト教に縁があることから、本学に適した選択と言えよう。その繁殖力の強さと栄養分の豊かさにあやかり、本学の研究が実り多きものとなり、まさしく栄養素として社会に貢献するものでありたいという願いを込めた。

同時に CLOVER の綴りは “Collected Literature in Organized and Valuable Electronic Repository” (組織的で有用性のある電子アーカイブに収集された文献)の頭字語で、ロゴタイプの前頭のマークは CLOVER のイニシャルを4つ組み合わせて、幸福のシンボルである四つ葉のクローバーを表現した。



#### 3.2. 画面デザイン

ロゴタイプをデザインの主役に据え、余計な要素をできるだけ省いてシンプルに徹した。画面を横断する緑色のラインについて、上段にはアクセントとして紺色のラインを組み合わせて画面が単調にならないようにし、下段には家畜のイラストを置き、あたかもクローバーの茂る牧草地にたたずんでいるような風景を描き、カジュアルで親しみやすい印象を演出した。

